

問1 平清盛は、娘の徳子を高倉天皇の後とし、その間に生まれた子を安徳天皇として即位させることで、天皇の親戚（外戚）として権力を強めました。このような平氏の政治手法は、かつて平安時代中期に摂政や関白となって実権を握ったどの家系の手法を模したものとイえますか。 （2021年 福岡県公立入試 類似）

1. 藤原氏 2. 蘇我氏 3. 足利氏 4. 北条氏

問2 9世紀末に遣唐使が停止された後、それまで取り入れてきた唐の文化を日本の風土や生活に合わせて消化し、洗練させた日本独自の文化を何とイいますか。 （2017年 香川公立入試 類似）

1. 国風文化 2. 天平文化 3. 弘仁・伴野文化 4. 化政文化

問3 平安時代中期の地方統治において、朝廷が国司に強い権限を与えるようになった歴史的な背景として、正しいものはどれか。 （2016年 広島公立入試 類似）

1. 戸籍に基づき土地を分ける班田収授の仕組みが行き詰まり、国司に徴税を請け負わせる必要が生じたため。
2. 鎌倉幕府が守護・地頭を設置したため、対抗措置として朝廷も地方行政を強化する必要があったため。
3. 大規模な海外貿易が始まったことにより、港を持つ地方都市を直接管理する官吏が求められたため。
4. 刀狩や検地が行われたことで兵農分離が進み、武士ではない専門の行政官が必要になったため。

問4 平安時代の文化において、和歌や物語などの文学が飛躍的に発展し、「古今和歌集」のような優れた作品が生まれた背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2026年 岐阜公立入試 類似）

1. 漢字を崩した「かな文字」が使われるようになり、繊細な心情や感覚を表現できるようになったため。
2. 遣唐使を通じて最新の中国文学が大量に輸入され、漢詩による創作活動が貴族の主流となったため。
3. 武士が政治の実権を握り、質実剛健な気風を重んじる新しい文芸様式が確立されたため。
4. 印刷技術が普及したことにより、それまで貴族のものだった文学が庶民層へ広く浸透したため。

問5 1068年の後三条天皇の即位から、1156年の保元の乱が起こるまでの期間、特に白河上皇によって進められた政治について、その具体的な仕組みとして最も適切なものはどれですか。 （2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 天皇が位を譲って上皇となり、独自の役所を設けて摂政や関白の力を抑えながら政治を行った。
2. 自分の娘を天皇の後とし、その子供を次の天皇に立てることで、外戚として実権を握った。
3. 武士として初めて太政大臣の地位に就き、日宋貿易による経済力を背景に政治を主導した。
4. 征夷大將軍の地位を得て鎌倉に幕府を開き、各地に守護や地頭を配置して支配を広げた。

問6 日本の歴史における「奈良時代」や「平安時代」といった名称は、どのような視点に基づいた時代区分ですか。最も適切な説明を選びなさい。 （2026年 山梨公立入試 類似）

1. 政治の実権を握る組織や施設が置かれた場所に基づいた区分
2. その時代を通じて使われていた元号に基づいた区分
3. 当時の人々の生活様式や代表的な文化の特徴に基づいた区分
4. 社会を支えていた主要な産業や経済の仕組みに基づいた区分

問7 平安時代、遣唐使が廃止されるなど対外関係が変化した時期と重なるように、地方では「国司」による統治のあり方が問題となりました。国司が地方政治の混乱を招いた背景やその実態について述べた文として、正しいものを選んでください。 （2024年 高山公立入試 類似）

1. 朝廷が徴税の権限を国司に委ねたため、一部の国司が私欲のために過酷な取り立てを行った。
2. 朝廷が地方豪族を国司に任命する方針に切り替えたため、各地で土地争いが激化した。
3. 遣唐使の廃止によって外国との貿易が途絶えたため、国司の主な収入源がなくなった。
4. 国司が土地の国有化を厳格に進めたことで、自墾地系荘園を所有する農民が反発した。

問8 平清盛の娘である徳子が天皇の後となり、その子が安徳天皇として即位したという関係は、かつて藤原道長が娘を一条天皇の後にした関係性と共通しています。このような、天皇の母方の親族として政治の実権を握る仕組みを説明する言葉として適切なものはどれですか。 （2021年 歴史公立入試 類似）

1. 天皇の外戚（がいせき）となつて、政治を動かす権限を持つこと。
2. 天皇の執権（しつけん）となつて、軍事的な指揮権を独占すること。
3. 上皇として院政（いんせい）を行い、天皇の代わりに実務を担うこと。
4. 下地中分（したじちゅうぶん）を行い、土地の支配権を天皇と分けること。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 藤原氏	平清盛は、自分の娘を天皇の后（中宮）として送り込み、生まれた子を次の天皇に立てることで政治的な発言力を強めました。これは、平安時代中期に藤原氏が摂関政治を行う際に用いた「外戚（母方の親戚）関係を利用した権力掌握」と同じ手法です。武家政権でありながら、形式としては従来の貴族政治の仕組みを継承していました。
問2	答え 1 国風文化	遣唐使の廃止（894年）により、中国文化の直接的な影響が薄れる中で、日本独自の美意識に基づいた文化が発展しました。これを国風文化と呼び、貴族を中心にかな文字の使用や和歌、寝殿造、大和絵などが好まれました。
問3	答え 1 戸籍に基づき土地を分ける班田収授の仕組みが行き詰まり、国司に徴税を請け負わせる必要が生じたため。	平安時代中期になると、人々の移動や偽りの登録などにより、戸籍に基づいた従来の徴税体制（班田収授法など）が機能しなくなりました。そこで朝廷は、国司に対して「一定の税を納めること」を条件に、現地の統治や徴税方法を自由に決定できる大幅な権限を与える方針転換を行いました。
問4	答え 1 漢字を崩した「かな文字」が使われるようになり、繊細な心情や感覚を表現できるようになったため	国風文化の最大の特徴の一つは、日本独自の文字である「かな文字」の発達です。それまでは漢字の音訓を利用して日本語を表記していましたが、かな文字の誕生によって、宮廷の女性や貴族たちが、日常の感情や自然の美しさをより自由かつ細やかに表現することが可能になりました。これが「古今和歌集」の編纂や、その後の「源氏物語」といった傑作の誕生につながりました。
問5	答え 1 天皇が位を譲って上皇となり、独自の役所を設けて摂政や関白の力を抑えながら政治を行った。	白河上皇は、天皇が幼少期にのみ置かれるはずの摂政や、成人後の関白といった役職を回避するため、自らが上皇として政治を司る「院政」を確立しました。これにより、長く続いた藤原氏の摂関政治を終わらせる土台を築きました。
問6	答え 1 政治の実権を握る組織や施設が置かれた場所に基づいた区分	日本の歴史における時代区分の多くは、政治の中心地がどこにあったかという視点に基づいています。例えば、平城京が置かれた時期を奈良時代、平安京が置かれた時期を平安時代と呼ぶように、政治の拠点（中心地）が変わるタイミングを時代の節目として捉える考え方が一般的です。
問7	答え 1 朝廷が徴税の権限を国司に委ねたため、一部の国司が私欲のために過酷な取り立てを行った。	九世紀後半から十世紀にかけて、政府は戸籍に基づいた従来の徴税が立ち行かなくなったため、国司に対して「徴税の完遂」を条件に大きな権限を与えました。これを利用した国司は、規定以上の税を農民から徴収して蓄財に励むようになり、これに苦しんだ有力農民（田堵）たちが国司の解任を求めて朝廷に訴えるなどの事態が発生しました。この混乱が、自衛手段としての武力の保持、すなわち武士団の形成を促すこととなります。
問8	答え 1 天皇の外戚（がいせき）となって、政治を動かす権限を持つこと。	平清盛は武士でありながら、藤原氏のような有力貴族と同じように「外戚（がいせき）」という血縁関係を利用して権力を握りました。清盛は安徳天皇の外祖父（母方の祖父）となり、天皇を支える名目で一族を高い官職に就け、政治を私物化しました。このように、娘を天皇に嫁がせて生まれた子を後盾にする手法は、日本の古代から中世にかけての権力闘争において重要な役割を果たしました。

問1 11世紀後半に白河天皇が始めた「院政」という政治体制の説明として、当時の状況を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 新潟県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 天皇が位を譲って上皇となったあと、役所（院）を置いて政治の実権を握り続ける仕組み | 2. 藤原氏が娘を天皇のきさきにし、その子を天皇に立てて外戚として政治を行う仕組み | 3. 地方の武士団が結集し、朝廷の命令を受けずに独自の領地支配を認める仕組み | 4. 中国の唐の制度にならい、律令に基づいて天皇が直接全国の土地と民を支配する仕組み |
|---|---|--|--|

問2 939年に瀬戸内海を中心に発生した藤原純友の乱について、この出来事が日本の歴史において果たした役割や背景として最も適切な説明はどれですか。（2019年 香川公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 朝廷の地方統治に対する有力者の不満が噴出し、武士が軍事力を背景に政治を動かす勢力として成長していることを示した。 | 2. 元寇による防衛費の負担に耐えかねた西国の武士たちが、幕府を倒すために団結して起こした。 | 3. 天皇中心の律令政治を復活させるため、地方の豪族が協力して貴族の勢力を排除しようとした。 | 4. キリスト教の布教を禁止した江戸幕府に対し、九州や瀬戸内海の信者が一斉に蜂起した。 |
|---|--|--|---|

問3 平清盛は、娘の徳子を高倉天皇に嫁がせ、その間に生まれた子供を天皇として即位させることで権力を確立しました。この時、清盛が「外戚」という立場で後見した天皇は誰ですか。（2021年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 安徳天皇 | 2. 後醍醐天皇 | 3. 白河天皇 | 4. 崇徳天皇 |
|---------|----------|---------|---------|

問4 平安時代後期、藤原氏を外戚に持たない後三条天皇が即位したことで、摂関政治の力が衰え始めました。その後、1086年に位を譲って退位した後も「上皇」として政治の実権を握り続けた人物は誰か、次の中から選びなさい。（2023年 香川公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 白河天皇 | 2. 聖武天皇 | 3. 桓武天皇 | 4. 明治天皇 |
|---------|---------|---------|---------|

問5 日本の古代文学における表記方法の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、奈良時代に編纂された歌集を『万葉集』、平安時代初期に編纂された歌集を『古今和歌集』とします。（2019年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 万葉集では漢字のみを用いて和歌が綴られているが、古今和歌集では日本独自の文字であるかな文字が用いられている。 | 2. 万葉集ではかな文字を用いて和歌が綴られているが、古今和歌集ではすべての和歌が万葉仮名のみで記されている。 | 3. 万葉集と古今和歌集はどちらも、中国の漢字を本来の意味でのみ使用して、日本語の音を表現しようとした。 | 4. 万葉集は漢詩のみを収録した作品集であり、古今和歌集から初めて日本語の音を書き写す試みが始まった。 |
|---|---|--|---|

問6 平安時代、藤原氏が天皇の幼少期には「摂政」、成人後には「関白」という職に就き、政治の実権を握った政治体制を何と呼びますか。（2023年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1. 摂関政治 | 2. 院政 | 3. 執権政治 | 4. 親政 |
|---------|-------|---------|-------|

問7 東北地方の歴史について述べた次の文のうち、当時の状況を正しく説明しているものはどれですか。かつて朝廷軍を打ち破ったこともある蝦夷のリーダーと、その後に派遣された政府側の人物の関係に注目して選びなさい。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に降伏した。 | 2. 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された源頼朝を北九州で迎え撃った。 | 3. 蝦夷の指導者であった平将門は、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に敗北した。 | 4. 蝦夷の指導者であった足利尊氏は、朝廷から派遣されたアテルイによって捕らえられた。 |
|--|--|---|---|

問8 11世紀後半、藤原氏を母に持たない後三条天皇の即位をきっかけに、摂関家の影響力が低下しました。その後、天皇が位を譲って上皇となり、摂政や関白の力を抑えて政治の実権を握った形態を何といいますか。（2017年 沖縄公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|-------|---------|---------|
| 1. 摂関政治 | 2. 院政 | 3. 武家政治 | 4. 執権政治 |
|---------|-------|---------|---------|

問9 平安時代初期、現在の東北地方に居住し、朝廷の支配が十分に及んでいなかった人々を指す名称として正しいものはどれですか。（2020年 島根公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 蝦夷 | 2. 渡来人 | 3. 南蛮人 | 4. 隼人 |
|-------|--------|--------|-------|

問10 平安時代、天皇が幼少のときや女性である場合に、天皇に代わって政治の全権を担った役職は何ですか。（2017年 大阪公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| 1. 摂政 | 2. 関白 | 3. 執権 | 4. 太政大臣 |
|-------|-------|-------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天皇が位を譲って上皇となったあとも、役所（院）を置いて政治の実権を握り続ける仕組み	平安時代中期まで続いた藤原氏による摂関政治は、天皇の母方の親戚（外戚）という立場を利用したものでした。11世紀後半、藤原氏を外戚に持たない後三条天皇のあとに即位した白河天皇は、譲位して上皇となった後も政治を司ることで、藤原氏の影響力を排除し、皇室主導の政治を取り戻そうとしました。これが院政の始まりです。
問2	答え 1 朝廷の地方統治に対する有力者の不満が噴出し、武士が軍事力を背景に政治を動かす勢力として成長していることを示した。	藤原純友の乱や平将門の乱は、中央政府である朝廷の支配力が地方まで及ばなくなり、地方の治安維持や統治を武士の実力頼らざるを得なくなった状況を反映しています。朝廷はこれらの反乱を鎮圧するために別の武士の力を利用しました。これにより、軍事専門職としての武士の地位が確立され、後の武家政治の成立へとつながる重要な転換点となりました。
問3	答え 1 安徳天皇	平清盛は、自身の娘である徳子を天皇の后とすることに成功しました。徳子と高倉天皇の間に生まれた子が安徳天皇です。清盛は、自分の孫にあたる安徳天皇を即位させることで、天皇に近い親族（外戚）として政治に大きな影響力を及ぼしました。これにより、平氏は「平氏にあらざれば人にあらず」と言われるほどの全盛期を築くことになります。
問4	答え 1 白河天皇	後三条天皇の時代に摂関家の影響力が弱まったことを背景に、その子である白河天皇は1086年に堀河天皇へ譲位した後も「上皇」として院（住居）で政治を行いました。これが「院政」の始まりです。これにより、藤原氏が摂政や関白として権勢を振るった摂関政治から、上皇が直接主導権を握る政治へと移行しました。
問5	答え 1 万葉集では漢字のみを用いて和歌が綴られているが、古今和歌集では日本独自の文字であるかな文字が用いられている。	奈良時代の『万葉集』では、まだ日本独自の文字がなかったため、漢字を音として利用する「万葉仮名」で和歌が記録されていました。その後、平安時代に漢字を簡略化した「かな文字」が考案されたことで、平安時代初期の『古今和歌集』では、より自由で柔らかな表現が可能になりました。
問6	答え 1 摂関政治	藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その子供を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）として強い権力を持ちました。天皇の成長に合わせて摂政や関白という役職を使い分け、一族で政治の中心を担ったことが特徴です。
問7	答え 1 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に降伏した。	東北地方に住んでいた蝦夷の人々は、アテルイという指導者のもとで一時は朝廷軍を撃退するほどの激しい抵抗を見せました。しかし、桓武天皇によって派遣された坂上田村麻呂が軍を進め、現在の岩手県に胆沢城を築くなどして支配を強めると、アテルイは最終的に坂上田村麻呂に降伏しました。
問8	答え 2 院政	平安時代中期には藤原氏が摂政・関白として権力を振るう摂関政治が行われましたが、白河上皇は天皇を退位してからも「院」として実権を持ち続けることで、藤原氏の介入を防ぎました。これが院政の始まりです。
問9	答え 1 蝦夷	律令国家の形成を進める朝廷は、現在の東北地方に住み、独自の生活様式を保っていた人々を「蝦夷（えみし）」と呼びました。朝廷は彼らを支配下に置くため、軍事的な征服や、城柵と呼ばれる拠点の構築を長年にわたって進めました。
問10	答え 1 摂政	天皇の代理として政治を行う役職であり、平安時代には藤原氏がこの職を独占しました。天皇が成人した後にその相談役として置かれる「関白」と合わせて、藤原氏による政治体制を支える重要な柱となりました。鎌倉時代に幕府の実権を握った「執権」とは、その役割や時代背景が異なります。

中学歴史プリント（過去問類似）

平安時代

名前

得点

/8

問1 国風文化の時期には、京都府宇治市の池のほとりに建てられ、左右対称の翼廊と屋根の上の鳳凰が特徴的な平等院鳳凰堂のような建築が見られるようになりました。このような文化が栄えた時期に成立した文学作品とその作者の組み合わせとして、適切なものはどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 紫式部 — 『源氏物語』 2. 清少納言 — 『方丈記』 3. 井原西鶴 — 『浮世草子』 4. 阿弥陀如来 — 『浄土真宗』

問2 平安時代の政治の変遷について述べた次の文のうち、白河天皇が行った政治体制の仕組みとして正しいものはどれですか。

（2024年 愛知公立入試 類似）

1. 天皇が位を退いて上皇となった後も、特定の役職に縛られずに政治の主導権を握った。 2. 藤原氏が娘を天皇のきさきに送り込み、その子供が天皇になると摂政や関白として政治を行った。 3. 源頼朝が征夷大将軍に任命され、守護や地頭を各地に配置して軍事や警察の権限を握った。 4. 唐の律令を模範とした法を整備し、全国に国司を派遣して土地と民を直接支配した。

問3 平安時代中期、藤原氏が自身の娘を天皇の妃（きさき）とし、その間に生まれた子が天皇になると、幼少期には摂政、成人後は関白という職について政治の実権を握りました。このような政治体制を何といいますか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 摂関政治 2. 院政 3. 執権政治 4. 親政

問4 800年代後半から1000年代半ばにかけての政治統計において、1017年前後には公卿の大部分が藤原氏で占められるなど、特定の氏族が圧倒的な力を持っていました。この藤原氏の全盛期を築き、のちに平等院鳳凰堂を建立した藤原頼通の父にあたる人物は誰ですか。（2021年 秋田県公立入試 類似）

1. 藤原道長 2. 藤原不比等 3. 藤原良房 4. 藤原基経

問5 平安時代中期に発達した文化について、その成立背景や特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2026年 神奈川県公立入試 類似）

1. 遣唐使の停止により大陸との直接的な交流が途絶えたことで、日本の生活や感性に合わせた独自の文化が発達した。 2. 聖武天皇の時代に、仏教による国家の安定を願って、大陸の進んだ技術や国際色豊かな文化が導入された。 3. 下剋上の社会風潮を背景に、大名や豪商たちの権力を象徴するような豪華で壮大な文化が開花した。 4. 中国の宋との貿易が盛んになったことで、禅宗とともに新しい形式の喫茶の習慣や水墨画が伝えられた。

問6 10世紀初頭の周防国（現在の山口県）における人口統計によると、働き手となる17歳から65歳の層において、男性66人に対し女性が136人と、自然な状態ではありえないほど男女の数に極端な偏りが見られます。このような戸籍の偽装が行われた理由として、当時の税制度の仕組みから説明したものと最も適切なものを選びなさい。（2024年 山口公立入試 類似）

1. 男性のみに課せられていた調や庸といった重い税負担を逃れるため、戸籍上で性別を偽ったから。 2. 女性にのみ公地公民制に基づく口分田が与えられていたため、土地を得ようと性別を偽ったから。 3. 収穫した稲の一部を納める「租」が男性のみに課せられていたため、その負担を回避しようとしたから。 4. 防人などの軍役が女性にのみ課せられていたため、男性が女性の身代わりになろうとしたから。

問7 西暦804年、空海が遣唐使とともに唐へ渡った頃、日本国内で行われていた政策や出来事として正しいものはどれか。（2017年 北海道公立入試 類似）

1. 坂上田村麻呂が征夷大将軍として東北地方に派遣され、支配地域を広げた。 2. 聖徳太子が冠位十二階を定め、家柄にとらわれない人材登用を行った。 3. 承久の乱ののち、朝廷を監視するために京都に六波羅探題が設置された。 4. 大名を厳しく統制するために武家諸法度が制定され、違反者は処分された。

問8 10世紀初めの戸籍の記録では、成人男性の登録数が女性に比べて極端に少なくなっている現象が見られます。例えば、当時の阿波国の戸籍において、ある一族のうち男性は全年齢で6名（11歳から40歳は0名）であるのに対し、女性は全年齢で25名（21歳以上も多数）と記録されているような事例です。このような不自然な男女比の不均衡が生じた背景として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 徳島公立入試 類似）

1. 租・庸・調や防人などの重い負担を逃れるため、本来は男性である者を偽って女性として戸籍に登録したから。 2. 律令政府が、墾田永年私財法によって私有地を広げた有力な女性農民を優遇し、戸籍に優先的に記載したから。 3. 度重なる飢饉や戦乱の影響により、体力の乏しい成人男性の死亡率が女性に比べて著しく高かったから。 4. 班田収授法において、女性に与えられる区分田の面積が男性よりも広く設定されており、家計を助けるために女性の登録を増やしたから。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 紫式部 — 『源氏物語』	平安時代中期には、仮名文字が発達したことで女性による優れた文学作品が数多く生まれ、紫式部は貴族社会を描いた長編小説『源氏物語』を著しました。同じ時期、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土教の信仰が広まり、その象徴として阿弥陀堂である平等院鳳凰堂が建立されました。
問2	答え 1 天皇が位を退いて上皇となった後も、特定の役職に縛られずに政治の主導権を握った。	白河天皇が始めた院政は、天皇が譲位して上皇（院）となり、摂関家の役職である摂政・関白を介さずに政治を動かす仕組みです。これにより、それまで全盛を誇った藤原氏の摂関政治を抑え、独自の軍事力（北面の武士など）を組織して支配を強めました。
問3	答え 1 摂関政治	摂政は天皇が幼いときや女性であるときに代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を司る役職です。藤原氏はこれら二つの官職を独占することで、天皇に代わって政治を主導しました。この仕組みは藤原道長・頼通の親子が権勢を振るった時期に全盛期を迎えました。
問4	答え 1 藤原道長	1017年前後は、藤原氏の権力が絶頂に達した時期にあたります。藤原道長は、自分の4人の娘を次々と天皇の后にし、3人の天皇の外祖父（母方の祖父）となって摂関政治の全盛期を築きました。「この世をば 我が世とぞ思ふ…」という歌でも知られています。
問5	答え 1 遣唐使の停止により大陸との直接的な交流が途絶えたことで、日本の生活や感性に合わせた独自の文化が発達した	九世紀末の遣唐使停止によって、外来の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の風土に適した形に消化するプロセスが進みました。この時期には、漢字を崩して作られた「かな文字」が普及し、『源氏物語』や『枕草子』といった優れた女流文学が生まれたほか、貴族の住居として日本の気候に合わせた「寝殿造」が普及するなど、日本的な美意識が強く反映されるようになりました。
問6	答え 1 男性のみに課せられていた調や庸といった重い税負担を逃れるため、戸籍上で性別を偽ったから。	律令制下の税負担において、収穫した稲を納める「租」は男女共通の負担でしたが、特産物を納める「調」や、労役の代わりに布を納める「庸」は、主に成人男性に対して課せられる非常に重い負担でした。このため、負担を回避しようと、戸籍上で男性を女性として登録する「偽装」が横行しました。このような状況は、政府が戸籍に基づいて「人」に税を課す仕組みを維持することを困難にし、後の時代に「土地」を基準として課税する仕組みへと変化していく要因となりました。
問7	答え 1 坂上田村麻呂が征夷大將軍として東北地方に派遣され、支配地域を広げた	空海が唐に渡ったのは平安時代の初期である。この時期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂は、征夷大將軍として東北地方へ遠征し、胆沢城を築くなどして蝦夷（えみし）の抵抗を抑え、朝廷の支配地域を拡大した。他の選択肢について、冠位十二階は飛鳥時代、六波羅探題は鎌倉時代、武家諸法度は江戸時代の出来事であり、時期が異なる。
問8	答え 1 租・庸・調や防人などの重い負担を逃れるため、本来は男性である者を偽って女性として戸籍に登録したから。	律令制下では、成人男性に対して庸や調といった布や特産物の納入、さらに防人や兵役などの重い労働負担が課せられていました。一方で女性の負担は男性に比べて非常に軽かったため、人々はこれらの課税や兵役から逃れるために、実際には男性である子供を女性として戸籍に記載する「偽籍（ぎせき）」を行いました。10世紀に入るとこの傾向は顕著になり、戸籍が本来の人口統計としての機能を失っていたことを示しています。

問1 藤原氏が政治を行う上で重要な地位となった「摂政」と「関白」の役割の違いについて、正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

1. 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。
2. 摂政は主に儀式や宗教的な行事を取り仕切り、関白は軍事指揮官として全国の武士を統率した。
3. 摂政は京都の朝廷内で貴族を監視し、関白は地方の国司を監督して税の徴収を直接管理した。
4. 摂政は天皇の父が引退した後に就く役職であり、関白は天皇の兄が就く役職であった。

問2 桓武天皇が、それまでの都であった平城京から離れ、長岡京や平安京へと遷都を繰り返した政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 和歌山公立入試 類似)

1. 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため
2. 大陸との交易を活発にするため、瀬戸内海に面した大型の港を建設し都とするため
3. 東北地方の蝦夷(えみし)を制圧するための軍事拠点として、より北方に位置する土地が必要だったため
4. 平城京において藤原氏の権力が弱まり、新しい有力貴族が自身の拠点に都を移そうとしたため

問3 日本列島の東北地方(現在の岩手県付近)に位置し、2011年に世界文化遺産に登録された歴史的遺産があります。平安時代後期、前九年合戦や後三年合戦といった戦乱で亡くなった人々を供養するために奥州藤原氏が建立した、内部が金箔で装飾された阿弥陀堂(金色堂)を含む寺院群を何といいますか。 (2017年 東京都公立入試 類似)

1. 平泉(中尊寺金色堂)
2. 厳島神社
3. 法隆寺
4. 日光の社寺

問4 12世紀後半に、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、兵庫の港(大輪田泊)を修築して積極的に交流を行った中国の王朝はどれですか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)

1. 唐
2. 宋
3. 元
4. 明

問5 平安時代に藤原道長が全盛期を築いた「摂関政治」において、藤原氏が政治の実権を握り続けることができた仕組みとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)

1. 自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み
2. 地方の武士を都に集めて軍事力を強化し、天皇を武力で威圧することで、無理やり政治の全権を委譲させる仕組み
3. 天皇が位を譲って上皇となったあとも、政治の窓口である「院」において実権を握り続け、藤原氏を排除する仕組み
4. 家柄に関係なく、試験によって優秀な人材を官僚として採用し、藤原氏の配下として政府の要職に配置する仕組み

問6 平安時代末期の政治体制の変化について説明した次の文章のうち、白河上皇が「院政」を開始した主な目的や背景として最も適切なものはどれですか。 (2024年 岐阜公立入試 類似)

1. 自分の子孫に天皇の位を確実に継がせ、藤原氏などの貴族による介入を防ぐため
2. 武士の不満を解消するために、有力な武士を重用して新しい軍事政権を作るため
3. 遣唐使を廃止し、日本独自の国風文化をさらに発展させるための拠点とするため
4. 律令制度を再建し、班田収授法を徹底して税収を安定させるため

問7 平安時代初期に最澄によって開かれた仏教について、その後の歴史に与えた影響や特徴を説明した文として正しいものはどれですか。 (2024年 愛媛公立入試 類似)

1. 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。
2. 最澄は、都から離れた山奥で修行するのではなく、東大寺などの南都六宗の勢力と協力して政治を支えた。
3. 最澄は、遣唐使として空海と同じ船で唐に渡り、帰国後は空海とともに真言宗を広めることに努めた。
4. 最澄が開いた天台宗は、貴族の間に深く浸透し、後に法然や親鸞が浄土真宗を開く際の直接的な教義となった。

問8 七百九十四年に実施された平安京への遷都と、その時期に進められた政治改革の背景について説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。 (2023年 大阪公立入試 類似)

1. 奈良の寺院勢力などの宗教勢力が政治に介入することを防ぎ、律令制に基づいた天皇の権威を回復しようとした。
2. 大化の改新によって蘇我氏の影響力を排除し、唐の律令制度を本格的に導入して中央集権体制を確立しようとした。
3. 全国に国分寺や国分尼寺を建立することで、仏教の力によって国内の政情不安や疫病を鎮めようとした。
4. 壬申の乱という大規模な内乱を経て即位し、新しい都で天皇の絶対的な権力を確立しようとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。	藤原氏は、天皇の成長段階に合わせて役職を使い分けました。天皇がまだ幼く、自身で判断ができない時期には「摂政」として代行し、天皇が成人してからも「関白」として常に天皇のそばで報告を受け、実質的な決定権を握り続けました。これらを合わせて「摂関」と呼びます。
問2	答え 1 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため	奈良時代の平城京では、国家の保護を受けた東大寺などの仏教勢力が政治に深く関与するようになっていました。桓武天皇はこうした宗教勢力の干渉を避け、政治の刷新と天皇主導の中央集権体制を再構築することを目指して、新天地である平安京への遷都を断行しました。
問3	答え 1 平泉（中尊寺金色堂）	奥州藤原氏の初代清衡は、長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏の教えに基づく平和な理想郷（浄土）を築こうと考え、平泉に中尊寺を建立しました。その中でも金色堂は、建物全体に金箔が施された豪華な阿彌陀堂として知られ、当時の東北地方における高い技術力と経済力を示しています。
問4	答え 2 宋	平清盛は、武士の政権を維持するための経済的基盤として、海外貿易に注目しました。当時、中国大陸を支配していたのは宋（北宋・南宋）であり、この貿易は「日宋貿易」と呼ばれます。清盛は瀬戸内海の航路を整備し、大型の船が往来できるようにしました。
問5	答え 1 自分の娘を天皇の後とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み	藤原氏は、娘を天皇の後（きさき）にするという婚姻関係を繰り返すことで、天皇との親戚関係（外戚関係）を築きました。これにより、天皇が幼少のときは「摂政」、成人したあとは「関白」という役職に就き、政治の実権を独占しました。藤原道長は4人の娘を次々と天皇の后にすることで、この体制の全盛期を築きました。選択肢にある武力による支配や、天皇の退位後に実権を握る院政とは異なる、婚姻を軸とした政治体制です。
問6	答え 1 自分の子孫に天皇の位を確実に継がせ、藤原氏などの貴族による介入を防ぐため	白河天皇は、摂関家との血縁関係が薄かったことを背景に、天皇が退位した後の地位である「上皇」として実権を握り続けました。これは、摂政や関白が政治を主導する摂関政治の仕組みを打破し、皇室主導の政治を取り戻すとともに、直系の血筋を安定させる狙いがありました。
問7	答え 1 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。	最澄が比叡山に開いた延暦寺は、平安時代を通じて日本仏教の中心的な教育機関のような役割を果たしました。後に鎌倉時代に新しい仏教を創始した法然、親鸞、道元、日蓮などの僧侶たちは、いずれも若い頃に比叡山で修行を積んでおり、天台宗は「日本仏教の母」とも呼ばれるほど大きな影響力を持っていました。
問8	答え 1 奈良の寺院勢力などの宗教勢力が政治に介入することを防ぎ、律令制に基づいた天皇の権威を回復しようとした。	当時の天皇は、平城京の寺院勢力と政治が結びつきすぎている弊害を重く見ていました。そこで、都を山背国の平安京に移すことでこれまでのしがらみを断ち、政治改革を推進しようとした。同時に、軍団の廃止（健児の導入）や勘解由使（かげゆし）の設置など、地方政治の腐敗を防ぐための具体的な改革も並行して行われました。

問1 平安時代初期、遣唐使として唐に渡り、帰国後に新しい仏教の宗派を広めた人物について、空海が行った活動の説明として適切なものはどれですか。（2017年 高知公立入試 類似）

1. 高野山に金剛峯寺を建立し、真言宗を広めた。 2. 比叡山に延暦寺を建立し、天台宗を広めた。 3. 知恩院を拠点として、浄土宗を広めた。 4. 臨済宗を伝え、幕府の保護を受けて禅宗を広めた

問2 平安時代中期、中央の朝廷から諸国に派遣され、現地の政治や徴税の実務を担っていた役職を何と呼ぶか、次の中から選びなさい。（2016年 広島公立入試 類似）

1. 国司 2. 戦国大名 3. 県令 4. 将軍から領地を与えられた大名

問3 平安時代末期の政情から鎌倉幕府の成立までを説明した次の文章において、空欄①と②にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを選びなさい。「12世紀半ば、鳥羽上皇の死をきっかけに皇室や貴族が二つの勢力に分かれて衝突する（①）が起こった。この戦いを通じて武士の力が認められるようになり、その後の動乱を経て平氏を倒し、鎌倉に幕府を開いた（②）による武家政治へとつながっていった。」（2025年 栃木公立入試 類似）

1. ①保元の乱 ②源頼朝 2. ①平治の乱 ②源義経 3. ①承久の乱 ②北条時政 4. ①保元の乱 ②足利尊氏

問4 東北地方に独自の文化を築いた奥州藤原氏が、鎌倉時代初期に滅亡へと追い込まれた背景について述べたものとして正しいものはどれですか。（2021年 大阪公立入試 類似）

1. 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため 2. 足利尊氏による新しい政治体制の樹立を拒み、武家勢力の反感を買ったため 3. 自由な商工業を重視する政策が、当時の朝廷が定めた律令制度に違反したため 4. 鎌倉幕府を樹立しようとする平清盛の勢力拡大に巻き込まれたため

問5 藤原氏が政治を行う上で重要な地位となった「摂政」と「関白」の役割の違いについて、正しく説明しているものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。 2. 摂政は主に儀式や宗教的な行事を取り仕切り、関白は軍事指揮官として全国の武士を統率した。 3. 摂政は京都の朝廷内で貴族を監視し、関白は地方の国司を監督して税の徴収を直接管理した。 4. 摂政は天皇の父が引退した後に就く役職であり、関白は天皇の兄が就く役職であった。

問6 平安時代中期、貴族を中心に「浄土信仰」が急速に広まった背景には、仏教の教えが衰える時期が来るとされる思想の影響がありました。この時代に平等院鳳凰堂のような華麗な建築が作られた理由となる、当時の社会情勢や考え方を説明したものとして適切なものを選んでください。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。 2. 国家の保護を受けて、鎮護国家の思想に基づき巨大な寺院を建てる必要があったため。 3. 禅宗の普及により、厳しい修行を通じて悟りを開くことが貴族の理想となったため。 4. 遣唐使が廃止されたことで、中国の文化を否定し、日本独自の武士の文化が成長したため。

問7 12世紀後半、平清盛は中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に進めるため、現在の神戸市にあたる瀬戸内海の要所に港を修築しました。この時、大型船が直接入港できるように整備された港の名称を次の中から選びなさい。（2019年 福島県公立入試 類似）

1. 大輪田泊 2. 博多 3. 長崎 4. 堺

問8 10世紀の平安時代中期、関東地方で平将門が乱を起こしたのとほぼ同時期に、瀬戸内海の家賊を率いて朝廷の政治に対する反乱を起こした人物は誰ですか。（2019年 香川公立入試 類似）

1. 藤原純友 2. 平将門 3. 源義朝 4. 北条泰時

問9 平安時代末期、白河上皇の邸宅跡からは当時の高度な文化を示す青磁などが発掘されています。このように、天皇が位を譲った後も「上皇」として自らの居所で政治の実権を握り、天皇に代わって政治を執り行う形態を何と呼びますか。（2024年 栃木公立入試 類似）

1. 院政 2. 摂関政治 3. 武家政治 4. 合議制

答え合わせ・解説

問1	答え 1 高野山に金剛峯寺を建立し、真言宗を広めた。	空海は最澄とともに遣唐使として唐に渡り、帰国後に真言宗を伝えました。彼は現在の和歌山県にある高野山に金剛峯寺を建て、修業の場としました。これに対し、最澄は比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めており、両者は平安時代の新しい仏教の二大勢力となりました。
問2	答え 1 国司	律令制のもとで中央政府（朝廷）から地方の「国」に派遣された官吏を国司と呼びます。平安時代中期には、戸籍による統治が困難になったことを背景に、朝廷は国司に現地の支配や徴税を大幅に委ねるようになりました。
問3	答え 1 ①保元の乱 ②源頼朝	鳥羽上皇の死後に発生し、崇徳上皇方と後白河天皇方に分かれて戦ったのは保元の乱です。この乱には源義朝や平清盛などの武士が動員されました。その後、平清盛が権力を握りますが、最終的に平氏を滅ぼして鎌倉幕府を開いたのは源頼朝です。
問4	答え 1 源頼朝と対立した源義経をかくまったことを理由に、軍事攻撃を受けたため	源頼朝は、対立した弟の源義経が平泉へ逃げ込んだことをきっかけに、奥州藤原氏への攻撃を開始しました。しかし、その背景には義経の保護という口実だけでなく、当時東北地方で独立した強大な勢力を持っていた奥州藤原氏を排除し、全国的な支配を確立したいという頼朝の政治的な目的がありました。
問5	答え 1 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。	藤原氏は、天皇の成長段階に合わせて役職を使い分けました。天皇がまだ幼く、自身で判断ができない時期には「摂政」として代行し、天皇が成人してからも「関白」として常に天皇のそばで報告を受け、実質的な決定権を握り続けました。これらを合わせて「摂関」と呼びます。
問6	答え 1 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。	平安時代中期（1052年頃～）には、仏の教えが正しく伝わらなくなる「末法」の世が来ると信じられていました。この「末法思想」による不安から、阿弥陀如来にすがって死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が爆発的に広まりました。藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂は、まさにその切実な願いを形にした建築物であり、当時の日本独自の「国風文化」の象徴でもあります。
問7	答え 1 大輪田泊	平清盛は、武士として初めて太政大臣の地位に就くと同時に、日宋貿易による経済力の強化を図りました。その際、瀬戸内海の航路を整備し、現在の兵庫県神戸市にあたる場所に「大輪田泊（おおわだのとまり）」を修築して、宋の商船が都の近くまで来られるようにしました。博多は九州の貿易拠点、長崎は江戸時代の出島、堺は室町時代以降に栄えた港町です。
問8	答え 1 藤原純友	10世紀前半、地方政治の乱れに乗じて各地で武士の反乱が相次ぎました。関東での平将門の乱に対し、瀬戸内海で反乱を起こしたのが藤原純友です。これら二つの動乱を合わせて「承平・天慶の乱」と呼びます。当初は朝廷の官吏（伊予掾）であった純友が、瀬戸内海の高僧を組織して反乱へ至った過程は、地方における武士の台頭を象徴しています。
問9	答え 1 院政	11世紀後半に白河上皇が始めた政治形態です。藤原氏が天皇の外戚（母方の親戚）として権力を持っていた摂関政治を抑え、皇室が政治の主導権を取り戻すために行われました。天皇が位を譲り、上皇となった後も「院庁」という独自の役所を置いて実権を振るいました。